
テンプレならテンプレらしくいけばいいのに、なぜこうなる

さんすべりあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テンプレならテンプレらしくいけばいいのに、なぜこうなる

【Nコード】

N4084Y

【作者名】

さんすべりあ

【あらすじ】

あたしと、幼馴染の筋肉バカはオンラインゲームの世界にいた。たぶん。しかし高レベル剣士のあたしはいいとして、この筋肉バカはハーフエルフの剣士なんていう無茶なキャラを作ったばかり。レベル1、紙より薄い防御力の相方とどう生き抜いていうの？

8月24日 プロローグ

コウキがシャーペンをくるくる回している。あたしには出来ない芸当だ。回そうとした瞬間にとんで行くので、うっかりすると人に当たってプチ凶器になる。

くるくる。

くるくる。

シャーペンは回り続ける。問題が解かれる気配はない。

「飽きた。飽きた飽きた飽きた」

コウキはとうとうひっくり返った。バンザイの形に両手を上げつつだったので、横置きにしてあるカラーボックスに手をぶつける。バカである。あたしの部屋は、殺風景なあんたのと違って物が多いんだから、少しは考えろ。

「いってえ」

「きつと天罰ね。寝てないで問題解けて、神様が言ってるんだよ」
「違いーよ。鬼トモにしごかれるカワイソーなオレに、休憩しろって言ってるんだ」

コウキは腹ばいに転がり、カラーボックスに片づけられていたパソコンの電源を入れる。

あたしは即座に消しゴムを投げつけた。

「なにやってんのよ。あたしが貴重な時間を割いてやってるんだから、さっさと宿題終わらせて」

夏休み最終週である。

にもかかわらず、この脳ミソ筋肉男は何もしていない。後から苦勞すると分かっているやらないのは、実はこいつマゾじゃなかるうか。

「トモがやってくれよー」

あたしは今度はマーカーペンを投げた。が、勝手にオンラインゲームを始めた彼には、反省の色も勉強に戻る気配もない。

「高一のあたしに三年のあんたの宿題やらせないで。そもそも、受験生がこの状況ってあり得ない！」

「あれ、親から聞いてない？ オレスポーツ推薦決まったから。受験ナシ」

コウキは有名私立大の名前を上げた。こっちは今から頑張ってるというのに、腹の立つ男である。ムカついたので、次々に文具を投げつけてやる。

息切れするまでやったのだが、筋肉バカの筋肉にはばまれた。HPぜんぜん削れてない。逆にあたしのが減ってる気がする。ほんとムカつく。

あたしは立ち上がると、寝そべったままキャラクター設定をしている男の背中に座ってやった。

「重い。ついでにセクハラ」

はっはっは。動揺している。乗ってるのが女だと思っていない幼馴染でも、多少は効くんだな。一矢報いた気になって、楽しい。

「耳、赤くなってる」

肉のない、ボンキュッポーンな体型から真逆のあたしだからできる芸当だ。色気とか雰囲気とか備わったら、さすがにここまではしない。自衛する。

「うるさい。降りろっての」

赤くなっただまま設定を終え、コウキは一生懸命ゲームに集中しようとしている。

「だったら宿題するって言って。あんたのママに頼まれてんの。報酬^{めあわせ}は前払いで、もう食べちゃったの……って、似合わないキャラ作ったわね」

あたしはぷぷつと噴いた。

画面に居るのは、金髪美形で背の高いハーフエルフの剣士だ。身長こそ標準だが、ドワーフなみに筋肉ダルマなコウキとは正反対。人は自分がないものに憧れるっていうけど、まさにソレ。分かりやすい。

「いいだろ」

「よくない。人種と職業が果てしなくミスマッチ。伸びないどころか、すぐ死ぬ」

「いいんだって。トモが宿題終わらせてくれるまでの暇つぶしだし」
「だから自分でやっててば」

「分かんねーもん」

言い合っている間に、ハーフエルフは死んだ。早っ。

コウキがこりずに同じキャラクターでプレイしようとしているので、あたしは回線を引っこ抜こうとした。

その瞬間、視界が真っ黒になった。

8月24日 プロローグ（後書き）

—— もう片方が文章硬いんで、やわらかめのも書いていみよう
かと思いました。更新はきつと遅いです。

8月24日 1（前書き）

カメな更新ですみません。

とりあえず、今日から三日間は更新します。

8月24日 1

むきだしの天井に、白くほこりがついている。

シーツはざらざらチクチクだ。

横を向けば、大雑把おおだっばに作られたサイドテーブル。縁にやすりがかけられていないので、うっかり触ると木の破片が手に刺さりそうだ。

明らかに自分の部屋ではない。

あたしは唸うなった。

「……」

とりあえず起き、自分の顔や腕を触てみる。現実っぽい感触。床をだんつと蹴くつてみる。

下の階からは、怒鳴り声がかえって来た。

落ちつこう。

まずは基本項目の確認だ。

名前、煙月えんげつさい斎。性別、男。年齢、60歳。職業、剣士。レベル、401。

ついでに現実のあたしは、関口友である。16歳、女子高生。

現在地は『スグロ』の宿らしい。見覚えがある……って言っているのかな。オンラインゲームの街だ。前回ここでクエストをこなして終わった。

記憶に問題はないけど、うん、いろいろ困ったな。

って、すがすがしく笑うのもどうなんだ自分。落ちついているつもりでも、実はパニック状態なのか。

『スグロ』は幸いにして、初心者の拠点の街『キョウ』から近い。

あたしは身支度を整えると、宿を出た。

*

足の速さは、関口友以上、煙月斎以下だった。

体力や技もそうだ。どうせなら、キャラそのものにしてくれればいいのに。

おかげで、モンスターに出会った時死ぬかと思ったよ！

いつもなら一撃なのに、レベル1の雑魚敵やつつけるのに十分はかった。

生きてるだけで偉いよ自分！

いや、学校とかいじめ110番のお題目じゃないけど、ホントに

そんなこんなで、『キヨウ』の拠点に着いた時にはへとへとだった。

全身汗で気持ち悪かったが、休みもせずに金髪美形の長身を探す中にはキャラ設定でかぶったんだろうなって人達もいたが、ハーフエルフの剣士なんておバカなのは一人だけだった。

まあ、当然だ。

しかもそのおバカさんは、他の人達が情報収集につとめているにも関わらず、真剣で素振りを行っていた。なんだその図太さ！

拠点から動いてなかったのはいいが、

「ばか——っ！」

あたしは跳び蹴りをかました。

完璧インドア派の関口友と違って、ちゃんと跳べた。相手もさる者、剣の柄尻で払われたが、着地も決まった。

「こんな街のと真ん中で刃物ふりまわすんじゃないわよ！」

コウキは慌てて剣を鞘に戻し、謝罪した。

頭を上げてこちらを見る。ぼそりと呟いた。

「うっわ、おネエのじいさんがいる」

居合抜きの一撃が決まったのは言うまでもない。

「いってー」

コウキが脇腹を押さえているが、途中で刃を返して峰打ちにしたので、あざで済んでいるはずだ。レベル401と居合抜きスキルがあるからこそできる、見事な手加減攻撃である（自画自賛）。

「だってコウキがバカなんだもん。反省して」

「……もしかしてトモ？」

コウキはあたしのキャラクターを見たことがないので、分からない。分らないで当然だ。

「そうよ」

「嘘だろ……。お前いきなり強くなってるぞ」

「この世界じゃまだまだよ。レベル700とか見たことあるから。しかも慣れてないせいかな、煙月斎本来の力じゃないし」

「でもオレより強い」

言っと、コウキは手近な木の枝を折って素振り始めた。真剣は他人の迷惑になるが、これくらいなら平気だと思っただけらしい。

……やっぱりこいつはスポーツバカだ。

現実世界より劣っていたから（そりゃそうだ。だってハーフェルのレベル1だ）って、体を鍛えようとするあたり筋金入りだ。

効率は悪そうだが、本人が頑張っているので止めないでおく。

こうして頑張っているコウキを見ているのは、嫌いじゃない。子供の頃はよく試合も見に行った。隙のない横顔はいいと思う。

今の美形顔は見慣れないから、できれば本人のに変更して欲しいけど。

しばらくコウキの横でぼーっとしてから、あたしは立ち上がった。「ギルドとか掲示板とか見て来る。コウキはここにいてね」
彼は手を止めた。

「オレも行く。お前、絶対しゃべんない方がいい」

「おネエのジジイで何が悪いのよ」

「存在自体が悪だろ。フツーに気持ち悪い」

「うるさい。あんたはここで気が済むまで素振りしてて」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4084y/>

テンプレならテンプレらしくいけばいいのに、なぜこうなる

2011年11月18日05時27分発行